

歴史を歩く 54

おおさきの歴史を旅してみませんか②⑩
 (移住の歴史と開拓の精神が息づく地域(野方荒佐野)①)

島津氏は豊臣氏と深い親交があり、徳川時代になっても藩内の殖産振興のため大阪とは深い交わりがありました。摂津の国の郡奉行であった出原次左衛門は徳川幕府に不満を持ち、大阪の薩摩問屋の藩士達を頼りに薩摩藩内への移住を計画します。

第2代薩摩藩主 島津光久しまづみつひさに移住許可を得た出原次左衛門は、元禄元年げんろく(1688年)〜元禄7年(1694年)の間、4回にわたって摂津・河内・和泉の人々計128名を荒佐野へ移住させました。当時原野であった荒佐野の地を開拓した人々の精神は、今もなお地域の歴史とともに住民の生活に息づいています。



2 たねうまいつきごう 種馬一的号の墓碑

明治17年に借り受けた優秀種馬で7年もの間に多数の良馬を生産した。宅地内にある。

1 六面地藏

天保6年(1835年)2月に建てられた。子孫繁栄の願いが込められている。

3 西南戦争激戦地跡

明治10年6月、恒吉(曾於市大隅町)の西郷軍本営から振武隊約2,000人が進撃を開始した際、これを官軍が迎え撃って激戦となった場所。

4 荒佐野小学校跡

明治7年2月に服部常右衛門氏の空き地を借り、草葺の家を一軒建てて学校が創立した。明治9年の卒業証書から、実際は『中邑小学校』が正しい校名ではなかったかと推測されている。

